

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

在宅医療の導入

本セッションの内容

Step 1 導入面接

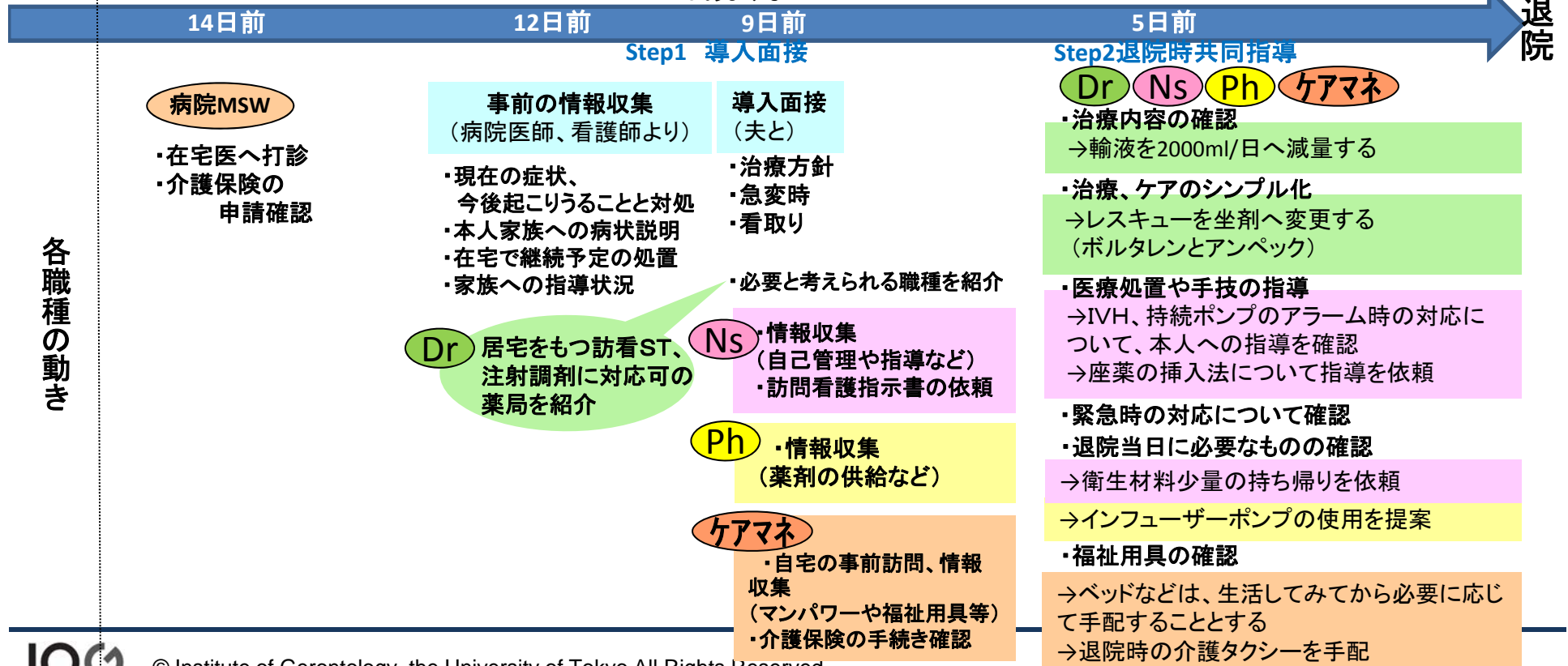
Step 2 退院時共同指導

Step 3 初回訪問診療

Step 4 在宅療養計画

臨床経過表1

本人	<ul style="list-style-type: none"> ・43歳女性 ・卵巣がん術後再発、腹膜播種 ・2か月前にイレウス症状のためA病院入院 ・化学療法を継続中 ・中心静脈栄養施行中(静脈ポート) ・サンドスタチンの持続投与中 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸液は2000ml/日 + 嘔吐分負荷 ・サンドスタチンはIVHバッグに混注している ・右尿管ステントの留置 ・病名・病状は真実を話されている ・予後について具体的な数字では話されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸液は3000ml/日程度 ・レスキューはモルヒネ点滴 「点滴をつけたまま生活できるか心配」 「一人の時に痛くなるのが心配」
家族	<ul style="list-style-type: none"> ・夫と2人暮らし ・平日日中は独居となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・IVH、持続ポンプの取り扱いを練習中 「抗がん剤は続けたい」 「〇〇ワクチンをしたい」 「急病時はA病院にお願いしたい」 「(最期のことは)まだ考えられない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・IVH、持続ポンプの取り扱いは一通りできるよになっている 「日中一人にしておくのが心配」
環境生活	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターのないアパートの3階 	<ul style="list-style-type: none"> ・布団の生活 ・室内に点滴をかける場所はあまりない 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・夫 「ベッドはなくて大丈夫だと思う」



症例：在宅依頼時点 day -14

- 入院先A病院のMSWから打診あり
 - 卵巣がん術後再発、腹膜播種の43才女性
-
- 2か月前にイレウス症状のために入院
 - 化学療法を継続中
 - 静脈ポートが造設され中心静脈栄養施行中
 - サンドスタチンの持続投与を行っている
-
- 介護保険は2日前に申請した

Step 1 導入面接

- 介護を担う家族と事前に面談の機会を設ける
 - 前医から不足のない診療情報を入手する
-
- 治療ケア方針についての家族の希望
 - 医療に関する確認事項
 - 1) かかりつけ病院
 - 2) 急病時の対応
 - 3) 看取り対応
 - “在宅療養支援チーム”の構成
 - 訪問看護ST、調剤薬局、居宅介護支援事業所等

情報提供シート

- 現在の症状とその対処
 - 在宅で起こりうる病態変化とその対処
-
- 本人家族への病状説明
 - 本人家族の希望（療養場所についての思い）
-
- 日常生活動作と必要なケア
-
- 在宅で継続予定の処置
 - 家族への指導の進捗

症例：事前の情報収集 day -12

- 入院病棟の担当看護師から得た情報
-
- 輸液はフルカリック2号2006ml/日＋嘔吐分負荷
 - サンドスタチンはIVHバック内に混注している
 - 右水腎症に対し尿管ステントが留置されている
 - ADLは屋内歩行可ながら臥床がち
 - 500ml/日程度の嘔吐を認めている

 - 病名・病状については真実を伝えている
 - 予後について具体的な数字では話していない

症例：導入面接（夫） day -9

- アパートの3階に夫と二人暮らし（子供はいない）
 - 平日の日中は独居となる
 - 化学療法は今後も継続したい
 - 民間療法（〇〇ワクチン皮下注）実施を希望
-
- 急病時にはA病院受診を希望
 - 看取り場所：これまで考えたことがなかった
-
- 居宅介護支援部門を持つB訪問看護STを紹介
 - 注射調剤に対応できる隣市のC調剤薬局を紹介

Step 2 退院時共同指導

- 開催の呼びかけとセッティング
-
- 病歴や現在行っている治療・ケアの確認
 - 療養場所についての患者家族の思い
 - 治療・ケアのシンプル化
 - 医療処置や手技の指導
 - 退院までに必要な手続きや準備
 - 再び入院が必要になった場合の対処方針
 - 状況を踏まえた退院日の決定

症例：退院時共同指導 day -5

- 在宅医、看護師、薬剤師、ケアマネジャーが参加
- 3000ml/日の輸液を行っていたが、胸腹水の貯留も考慮し、2000ml/日に減量することに
- サンドスタチンの投与方法を持続皮下注に変更
- IVH管理の手技や持続注入ポンプの取り扱い方法の指導を患者および夫へ実施する
- レスキュー指示がモルヒネ点滴であり、在宅ではボルタレン坐剤とアンペック坐剤を使用する
- 介護用ベッドは必要ないと思っている
- 退院にあたって介護タクシーとヘルパーを手配

臨床経過表2

本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ポート針は抜けるが、刺せない 「毎日吐いているけれど、鼻からの管は辛いのでやめてほしい」 「布団での寝起きはやっぱり大変」 「病院ではだるかったけど、帰ってから気分が良い」 	<ul style="list-style-type: none"> 「少しずつ自宅の生活に慣れてきた」 「座薬を使うときもあるけど病院にいたときよりも、痛くない」 「吐くのは、相変わらず」 「もう少し楽に寝起きできたら、もう少し動けそう」 「夫と温泉旅行に行きたい」
家族	<ul style="list-style-type: none"> 「家に連れて帰れてほっとした」 「妻と私でどれくらいやれるかは、やってみないとわからない」 	<ul style="list-style-type: none"> 「少しはペースがつかめてきた」 「調子は悪くないみたい」 「もう一度温泉旅行に連れて行ってあげたい」
環境生活	<p>day0</p> <p>↓</p> <p>退院日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浴室はトイレ体型ユニットバスで段差が高い ・点滴スタンドをレンタル 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッド、マットを導入 <p>7日後</p>
各職種の動き	<p>Step3 初回訪問診療</p> <p>Dr Ns Ph</p> <p>訪問看護師、薬剤師が同席 (ケアマネが同席して担当者会議となる場合もある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境と病状、希望を考慮して治療、ケアについて確認する ・入浴は訪問看護介助下へポート針の穿刺を担当する ・医療機器や自己管理について再確認 ・サンドスタチンの配薬 ・IVH製剤、サンドスタチン、オピオイド等の管理指導 <p>・必要な福祉用具(介護ベッド、浴室椅子など)やマンパワー(ヘルパーなど)の手配</p> <p>・ケアマネが介護用ベッドをすぐ手配できるよう準備</p>	<p>Step4 在宅療養計画</p> <p>治療方針の確認 起こりうる病態への予測指示を出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内服困難に陥った場合 → アンパック坐剤の屯用→定時使用→デュロテップMTパッチへ ・嘔吐の量や回数が増加した場合 → 経鼻胃管を留置せざるを得ない ・現在の化学療法のレジメンが無効となった場合 → 緩和ケアへの全面移行を意味する ・尿路感染や腎後性腎不全の可能性がある ・ステント閉塞時 → A病院泌尿器科で交換する <p>本人・家族のやりたいことの実現を目指す</p> <p>温泉旅行の希望を実現させたい → 時期、必要な条件など検討 必要に応じて訪問看護師、ケアマネに相談</p>

Step 3 初回訪問診療

- 在宅ならではの診療に真の意義がある
-
- 生命と生活を支える6つの視点
食事・排泄・睡眠・移動・清潔・喜び
 - 患者の認識と治療ケア方針についての希望
 - 初回訪問時に得られる情報
1) 住環境 2) 生活の様子 3) 家庭背景

症例：退院日初回訪問診療 day 0

- 訪問看護師と薬剤師が同席
- その後も1日に200～700mlの嘔吐があるが、経鼻胃管留置は以前つらかったので避けたい
- ポート針は抜けるが、刺すことはできない
- 浴室はトイレ一体型ユニットバスで段差が高い
- 訪問看護介助下入浴とし、ポート針を穿刺する
- 布団での寝起きは楽でないことがわかった
- 病院ではだるくて起き上がれなかったが、退院後気分が良くなり落ち着いて過ごしている

Step 4 在宅療養計画

- 患者情報
主病名、重要な処方、他院との併診、追跡項目
 - 導入面接
家族の希望、医療に関する確認事項、在宅療養支援チーム
 - 初回訪問診療
住環境、生活の様子、家庭背景
-
- 治療ケア方針
 - 起こりうる病態と予測指示

症例：在宅療養計画 day +7

- アンペック坐剤屯用→アンペック坐剤定時使用
→デュロテップMTパッチのローテーションを想定
- 嘔吐の量・回数が増加した場合、経鼻胃管を留置せざるを得ない
- 現在のレジメンが無効となった場合、緩和ケアへの全面移行を意味する
- 尿路感染や腎後性腎不全の可能性がある
- スtent閉塞時はA病院泌尿器科で交換する
- 夫婦での温泉旅行の希望を実現させたい